



昨日之法三波寄書
 余等より之方は又ある事
 二通一は流しとあるは
 初小園大守殿多事
 一は流しとありし書
 二笑は又も知より可
 得阿之

老其室に侍者一
 く内出陣侍一
 一交

一は七帯留より一
 毎

一は出倉書に才
 一は是の事は
 一は河系

一は是の仕立
 一は是の仕立

一は是の仕立
 一は是の仕立

一は是の仕立
 一は是の仕立

一は是の仕立
 一は是の仕立

一は是の仕立
 一は是の仕立

一は是の仕立
 一は是の仕立



之方七思也出鳴沙口

形勢の○はに及南人必

中世其情、安民為也

其也獨り予にしかる勢也

三説馬致意の安民也

○阿に好は向く可

如馬致意の安民也

李東、子、一、一、

致意、ちんぎん、の保心

以傳教年、かん地、

予と若兄、かん地、

揚中、かん地、大抵、背

才、かん地、多し、多

需、かん地、多し、多

為、の、用、繁、多、多

子、かん地、事、かん地、者、兄、

裁、かん地、高、かん地、用、

計、かん地、かん地、かん地、

者、兄、かん地、かん地、

此、かん地、かん地、かん地、

根、かん地、かん地、かん地、

三、かん地、かん地、かん地、

と、かん地、かん地、かん地、

了、也、かん地、かん地、

一、かん地、かん地、かん地、

計、かん地、かん地、かん地、

實、かん地、かん地、かん地、

如、かん地、かん地、かん地、

一行初の「阿茶」
計土木の事、
買得便に、
大失操と説り、
風説直り、
華に非絶、
潮合と存、
之に何ぞ、
名教件、
俗混因、
古新、

乙酉月廿二日 雞鳴

二月廿二日
乙酉月廿二日
丁未年

羊相

杜解書見

創六